

事例紹介

おやま 神奈川県相模原市立 **小山中学校**

学習の習慣化を、学校が支える！

～次代を担う生徒を育む学校経営～



小山中学校は、平成28～30年度相模原市教育委員会「特色ある学校教育研究事業委託校」として、授業改善や生徒が誇れる学校作りに積極的に取り組んでいます。次代を担う生徒の育成を目指す同校の学校経営の様子をご紹介します。

家庭 家庭学習サービスで、学習習慣のきっかけ作り

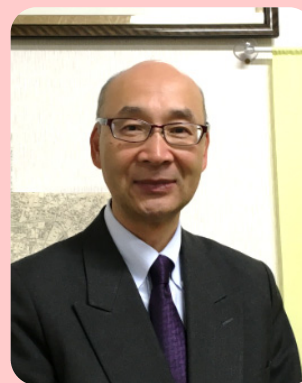
小山中学校では、今年度からeライブラリの家庭学習サービスを全生徒に案内しています。本サービスを運用するねらいについて、佐藤 修 校長先生にお話を伺いました。

佐藤 修 校長先生のお話

1つできた経験が、「次もがんばってみよう」につながります。その一歩を学校として支えたい。

本校では、以前から家庭での学習不足が大きな課題でした。そこで、毎日の学習習慣作りのきっかけの1つになってほしいと願い、家庭学習サービスの運用を始めました。着手しやすいeラーニングという形なら、これまで家庭学習をしてこなかった子どもも勉強を始める機会になりますし、そうして1度学習できた経験が、「次もがんばってみよう」という思いにつながります。

また、保護者から学力の確実な定着が求められる一方で、授業が多様化し、授業内で定着やふりかえりまで完結しない場面も増えています。これからは、家庭や学習会などドリルを使って基礎・基本をしっかりと定着させる機会をどんどん与え、生徒や保護者の思いに学校としてきちんと応えていくことが大切だと考えています。



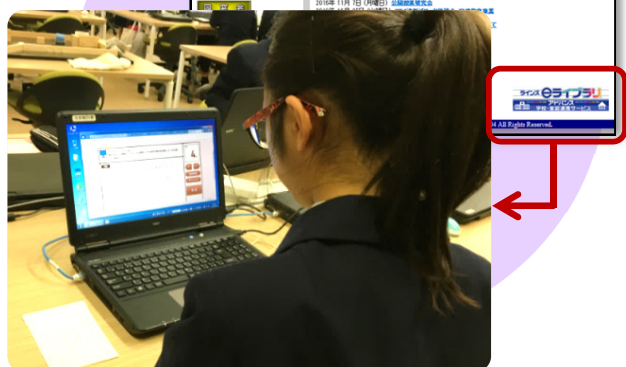
佐藤 修 校長先生

● 最初の一歩につながる呼びかけ

生徒が家庭学習に興味をもつきっかけになるよう、小山中学校のホームページには、**家庭学習サイトのリンク**が大きく張られています。

また、家庭での学習習慣がない生徒でも始めやすいように、**まずは「テスト前に毎日30分間の学習」**を目標にするよう呼びかけています。実際にテスト前に学習したかの聞き取り調査も毎回行っており、生徒の意識アップにつながっています。

さらに、家庭内での話題につながるよう、学校だよりで紹介したり、保護者会で説明を行うなど、保護者に知ってもらう機会を積極的に設けています。



▲学校HPから家庭学習サイトにジャンプ！

放課後 テスト前に、学習会で疑問を解決！

小山中学校では、テスト前の放課後に先生と一緒に自主学習ができる「放課後学習会」を行っています。この秋からeライブラリを使ったPC教室での学習会も登場しました。

● 友達と一緒になら、頑張れる！

各自で事前に学習計画表を作成するなど、テスト前の自主学習に力を入れている小山中学校では、テスト直前の放課後に、希望者制の学習会を行っています。

この日のPC教室には約25名の生徒が集まり、**期末テストに向けてeライブラリのドリル学習に取り組みました。**「皆と一緒に頑張れる」と、友達を誘って参加する生徒が多いそうです。



● 先生の立ち会いが嬉しい

放課後学習会には必ず先生方が立ち会うのも、生徒に嬉しいポイントです。質問に答えたり、悩む生徒に楽しく解説したりと先生方は大活躍！

学習会を運用する前は、先生方はテスト前には遊んでいる生徒がいないか、町の見回りに行っていたそうです。指導の重点を学習会に移したことで、生徒に寄り添い、支える姿勢がより強く打ち出されています。



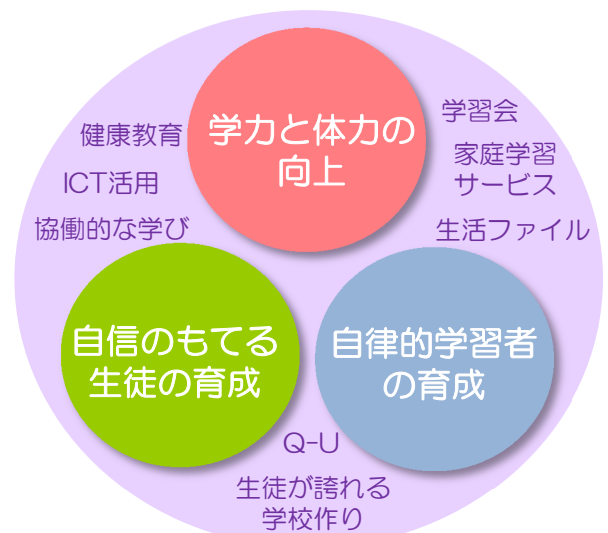
経営 次代を担う子どもの育成に向けて

小山中学校では、「次代を担う子どもを育む中学校教育の創造 ～主体的・協働的な学びとたくましく生きる生徒の育成～」を研究テーマに、学力と体力の向上を目指しています。

● 包括的に生徒を支える

「学力と体力、両方の向上を目指す研究は珍しいですよね」と笑う佐藤校長先生。それでも、今の子どもたちの未来を考えると、**生涯にわたって学ぶ力とそれを支える体力の育成**は欠かせないそうです。そのため、生活改善のための「生活ファイル」内に、自ら学習計画を立てて自己点検を行う欄を設けるなど、その両立に積極的に挑戦しています。

各教科の先生方が授業改善のための話し合いを毎週重ねる一方で、管理職の先生は「生徒が所属していることを誇れるような学校作り」を進めるなど、先生方が一丸となって研究に取り組んでいます。



▲小山中学校の研究課題と主な取り組み

佐藤校長先生のお話 ～家庭学習サービスの運用にこめた思い～



この家庭学習サービスに思うことは、**まずは早く始めてみるのが大切**だということです。本サービスを始めるには、学校長の決断が必要ですし、先生方や保護者の理解も必要です。本校も今年始めたばかりで、効果的な運用を模索している段階です。運用の中で失敗することもあるかもしれませんが、**自分の学校がこうした新しい取り組みに挑戦する学校であることが、子どもたちの自信にもつながる**と信じています。